



原油価格の下落とオーストラリア株式の動向

オーストラリアは原油純輸入国

昨年後半から原油価格が下落しました。原油価格下落が各国の経済に与える影響については、原油の純輸出国であるか、純輸入国であるのかという点がポイントになると考えられます。

オーストラリアは、原油を産出し輸出を行っていますが、現在、原油の純輸入国です(図表1)。したがって、原油安は、エネルギーコスト(燃料費や原材料費等)の削減で家計や企業等に寄与し、中長期的には、オーストラリア経済にプラスとなると期待されます。

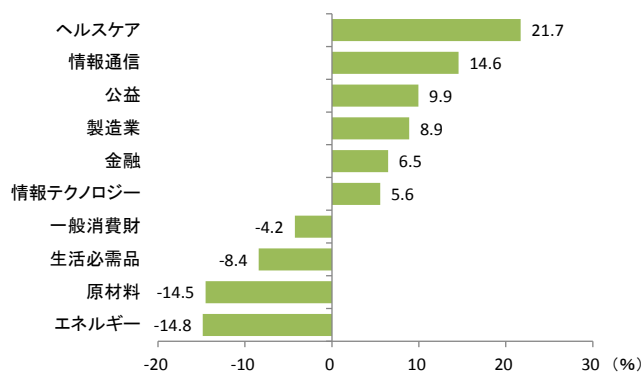
今後のオーストラリア株式の動向

オーストラリア株式の業種別指数の2014年年間騰落率を見ると、ヘルスケア、情報通信、公益等の内需関連セクターでは、相対的に高いパフォーマンスをあげている一方、資源価格の下落等の影響もあり、原材料、エネルギーといった資源にかかわるセクターは、マイナス・パフォーマンスとなりました(図表2)。

オーストラリアは、鉄鉱石などの鉱物や石炭、天然ガスなどの天然資源を輸出している世界有数の資源国です。昨年の資源価格の下落等が、オーストラリア株式の上昇を抑える要因となっていることや、2014年12月時点での予想株価収益率(予想PER)を見ると、オーストラリア株式が15.1倍、世界株式が16.4倍、米国株式が17.2倍の水準にあること等から、現在のオーストラリア株式は、主要先進国の株式指数と比較し、割安な水準にあると考えられます(図表3)。

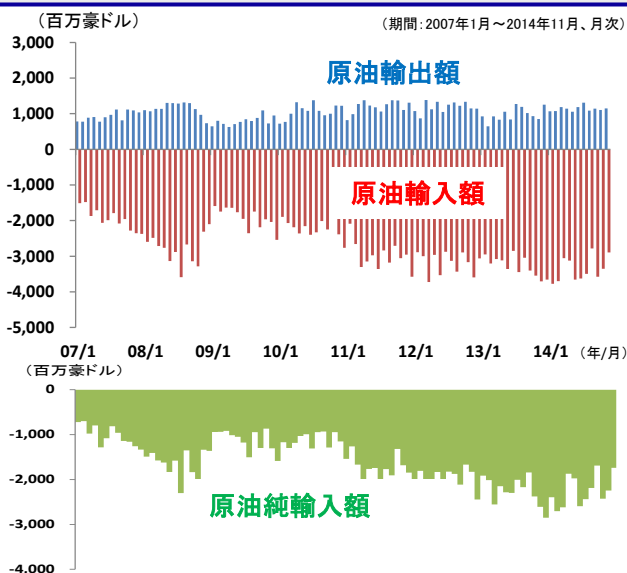
オーストラリア経済が個人消費や住宅関連を中心とした内需主導で回復してきていること、今後、原油安がプラスに寄与するであろうこと、資源価格は中長期的には下がり過ぎの水準にあると思われること等から、今後のオーストラリア株式については、割安な水準からの水準訂正が期待できると見込まれます。

図表2 豪州株式、業種別指数の年間騰落率(2014年)



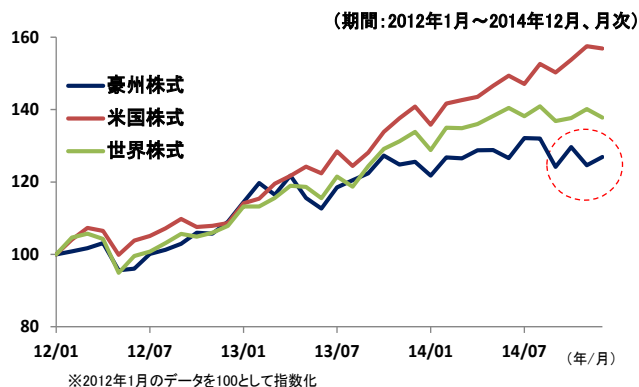
(注) オーストラリア株式: S&P/ASX200指数、米国株式: S&P500種指数、世界株式: MSCI世界指数

図表1 豪州の原油輸出入額と純輸入額

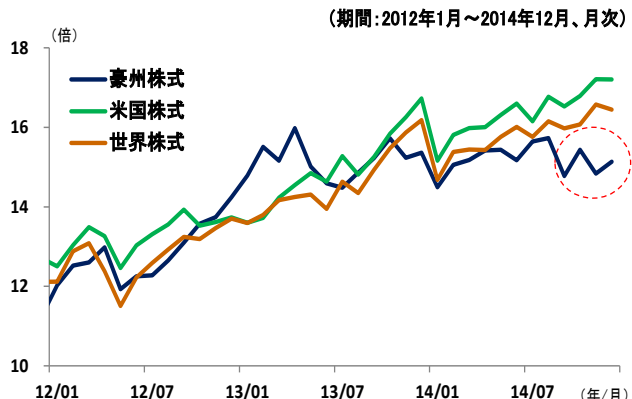


図表3 豪州、米国、世界株式指数と予想PER

＜世界、米国、豪州株式指数の推移＞



＜世界、米国、豪州株式の予想PERの推移＞



出所: 図表1~3は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成